

年代		主な出来事 研究テーマ 歴代所長等		2024(令和6)年7月現在
1942	昭和17	12月	学園創立	
1964	昭和39	4月	東海大学短期大学部を熊本市渡鹿に開学	
1973	昭和48	4月	九州東海大学を熊本市渡鹿に開学	
			九州東海大学阿蘇校舎を熊本県阿蘇郡長陽村河陽に開設	
1980	昭和55	4月	九州東海大学に農学部を開設	1981～1983(昭和56～58)年度 ◇阿蘇地域における農業開発研究に関する総合的研究 (研究業績が評価され農学部の付属研究所として総合農学研究所の設置に至る)
1984	昭和59	4月	九州東海大学に大学院農学研究科を設置	1984～1986(昭和59～61)年度
1985	昭和60	4月	<b>農学部付属研究所として、総合農学研究所設立</b>	◆地域開発のための農業生産技術の解明に関する研究
			初代所長 藤井義典(1985～1986年度)	
			所報第1号を刊行(以後毎年刊行)	
			2代目所長 宮司 佑三(1987年度)	1987～1989(昭和62～平成元)年度 ◆農業技術の近代化に関する総合的研究
			3代目所長 松村 正(1988～1989年度)	◆亜熱帯地域における有用資源の調査と利用に関する研究 ◆バイオテクノロジーによる生物資源の開発と利用
			4代目所長 石橋 武彦(1990～1991年度)年度	1990～1992(平成2～4)年度 ◆農業生産性向上のための新技術の開発に関する研究
			5代目所長 野原 啓吾(1992～1993年度)	◆バイオテクノロジーによる生物生産技術に関する研究 1993～1995(平成5～7)年度
			6代目所長 信國 喜八郎(1994～1995年度)	◆温帯環境下における生物資源の探索と生産性向上に関する研究 ◆亜熱帯環境下における生物資源の探索と生産性向上に関する研究 ◆バイオテクノロジーによる生物生産技術の開発に関する研究
			7代目所長 山口 武夫(1996～1998年度)	1996(平成8)年度 ◆生物生産向上のための遺伝子資源の保存、開発および制御に関する研究 1996～1998(平成8～10)年度 ◆有用生物資源の探索と農業の生産性向上に関する研究 ◆熱帯・亜熱帯環境下における生物資源の探索と生産性向上に関する研究
			8代目所長 片野 學(1999～2000年度)	1999～2000(平成11～12)年度 ◆鶏における筋肉タンパク質合成と甲状腺ホルモン作用相互関連遺伝子の解析 ◆牛の生体代謝機能と動植物の構成に及ぼす林内放牧の影響 ◆西表島に自生するナリヤランの繁殖メカニズムの解明に関する研究 ◆天然素材由来の機能性成分の単離と構造研究 ◆部位特異性突然変異手法を用いたリゾチーム糖転移反応機構の解明
			9代目所長 鳥淵 隆雄(2001年度)	2001(平成13)年度 ◆有機農業による作物栽培ならびに家畜飼育に関する農学的研究 ◆鶏における過剰脂質代謝要因のプロテオーム解析 ◆森林形成の相違による土壌保水能力とかん養能力に関する研究 ◆日本産およびニュージーランド産マキ科樹木の染色体について 2001～2002(平成13～14)年度 ◆日本固有種ラン藻・スイゼンジノリの培養およびその機能成分の検索 2001～2003(平成13～15)年度 ◆ベリー類果実の栽培と加工食品の開発並びに機能性成分の解明に関する研究
			10代目所長 桜田 聖孝(2002～2004年度)	2002(平成14)年度 ◆鶏の過剰な脂肪蓄積要因解析と脂肪細胞由来の有用物質の検索 2002～2004(平成14～16)年度 ◆ゲース型リゾチームの遺伝子改変と植物防御のための新規人工溶菌酵素の作成 2004(平成16)年度 ◆雑穀の産地形成を目指した品質と生産性への挑戦
2005	平成17	4月	東海大学に連合大学院(九州東海大学と北海道東海大学との連合)を開設し、 理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科を設置 学部の付属研究所から大学院の付属研究所に再編成される	2005(平成17)年度 ◆阿蘇くじゅう国立公園特別地域における指定植物ミヤマキリシマ群落の保護管理に関する基礎的研究 ◆ヒノキ科およびシバ属植物における蛍光染色法による細胞遺伝学的分析の試み ◆鶏の食欲調整中枢における甲状腺ホルモン欠如の影響 2005～2006(平成17～18)年度 ◆雑穀の産地形成を目指した品質と生産性向上への挑戦 2005～2007(平成17～19)年度 ◆タンパク質工学的手法を適用したタンパク質(酵素)の構造と機能に関する研究 ◆チーズの機能性に関する研究 2006～2007(平成18～19)年度 ◆スファグナム基盤を利用した残留肥料の吸着による水質および土壌浄化に関する研究 2007(平成19)年度 ◆還元品種「天草大王」の食肉特性および飼育方法に関する研究
			11代目所長 鳥淵 隆雄(2005～2007年度)	
2008	平成20	4月	東海大学・九州東海大学・北海道東海大学を統合 東海大学に農学部を開設 東海大学大学院に農学研究科を設置 <b>総合農学研究所、東海大学付属研究所となる</b>	
			12代目所長 芝田 猛(2008～2009年度)	2008～2009(平成20～21)年度 ◆蛋白質工学による酵素の構造と機能の研究：リゾチームの触媒反応機構解明と機能変換
			13代目所長 村田 達郎(2010～2014年度)	2008～2010(平成20～22)年度 ◆ムラサキマサリを用いた高度循環型醸造に関する産官学研究 2011～2013(平成23～25)年度

				◆アントシアニン含有イモを活用した機能性成分の有効利用に関する研究
			14代目所長 荒木朋洋(2015～2016年度)	2014～2016(平成26～28)年度
				◆東海大学オリジナル機能性食品素材の創出
			15代目所長 小野政輝(2017年度)	2017～2019(平成27～29)年度
				◆生活習慣病に関連する生命現象の解明とその予防を目指した機能性食品素材の探索
				◆熊本地震による中山間地農業の被害と復興に関する総合農学的研究
			16代目所長 村田 達郎(2018～2019年度)	◆熊本系褐毛和種の特性評価
			17代目所長 今川 和彦(2020年度～)	2020～2023(平成30～令和5)年度
				◆QOL向上を目指した発酵食品のin vivo評価と新規機能性成分の探索
2023	令和5	4月	阿蘇くまもと臨空キャンパスを熊本県上益城郡益城町に設置	◆熊本系褐毛和種の遺伝学および衛生学的解析

参考資料：学園沿革、東海大学広報、総合農学研究所報